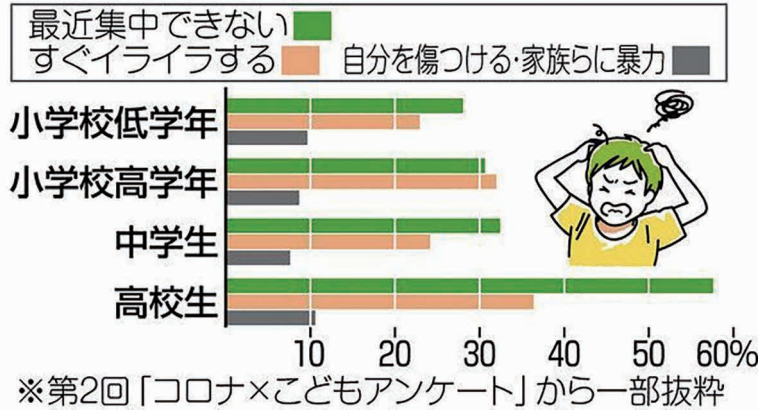




藤岡 緑 議員

コロナに対する子どもたちのストレス反応



地域の独居高年齢者の生活支援は

問 高齢化に伴う独居生活者の増加で、第5次松前町総合計画の基本施策「笑顔で暮らせる健康づくり」においても高齢者生活支援の充実が大きな課題となっている。

特に既往症のある中高年齢者が突然倒れたなど、いざというときの地域連携支援は。現状の把握とその対策は。

答 平村福祉課長

令和元年度国民健康保険連合会のデータによると、40～64歳までの対象被保険者1896人中、医療機関を受診した心疾患のある人は155人、その内独居は35人で全体の1.9%、脳血管疾患のある人は71人で、この内独居は11人で全体の0.6%だった。また国民健康保険以外の被保険者の現状は把握していないが、勤務

先の健康診断や定期的な健康管理できる環境にあることを踏まえると既往症による突然死の可能性はさほど高くないと判断している。むしろ積極的に健康づくりを励んでもらうように、町では令和2年度を健康づくり元年と位置付け、「松前町健康づくりフォーラム」や「まささき健康ポイント」など中高年齢者の生活習慣病における心疾患や脳

血管疾患の重症化予防の取組を推進し、地域支援をしたい。

問 緊急時の連絡方法など周知したいことは。

答 スマートフォンなどによる見守りサービスアプリの導入など、民間のサービスについて紹介、周知していきたい。

コロナ禍の子どもたちの心の問題は

問 学校生活においてコロナ禍の影響を受けている子どもたちの心の問題について、現状の把握、現場の対策など町の考えは。

答 住田学校教育課長

平素は、町内の小中学校において子どもたちへの

「学校生活についてのアンケート調査」や教員による観察・相談や日記指導を行うとともに専門の相談員を配置して個別相談を行っている。

厚生労働省の研究機関が行った小中高年生に対するコロナ禍の影響についてのアンケート結果でも「すく

にイライラする」「寝付けない」「いやな夢を見る」などストレスがある子どもが全体の76%を占めており、周囲に気付かれにくいことも多いので注意が必要と指摘している。

教育委員会としては、保護者が子どもたちに一層寄り添い、変化を捉えられる

よう、学校を通して家庭への啓発を行った。

これらの取組により子どもたちの悩みや不安を早期に把握し解消できるよう、学校、家庭、関係機関と連携しながらきめ細かく対応していきたい。